

平成十九年

有けましとおめでとつ、ごまじ



下田市議会議長
森 温 繁



下田市長
石井 直 樹

明けましておめでとございます。市民の皆様方におかれましては清々しく新春を迎えられたこと、心からお慶び申し上げますとともに、日頃から市政に對しまして、深いご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。さらなる行財政改革に向けて

河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町)の合併枠組みを示しました。現在各市町で同一基準による最新の財政シミュレーションを作成しており、その結果を基に合併協議を進めていくことになっております。地方財政に対する国の方針転換と高い少子高齢化率や多様化・高度化する行政ニーズを考えますと、これまでのような行政運営が立ち行かなくなることは明らかであることから、県の支援を仰ぎこの合併を積極的に進めるべきであると考えております。

昨年、地球温暖化が異常気象と合い、また、大変な景気低迷の中、予算編成で困難を極め、職員の給料カットと真に身を削るに等しい協力で何とか対処した経過がありました。議会の方も期末手当20%削減を図り、また次の市議会議員選挙より定数を18人から16人へ2人削減するなど、対応してまいりましたが、今後

下田は風光明媚な自然に恵まれ、歴史的な建物も点在し、人情豊かな風土なので、まちづくりの情熱を持った人達が協力し合って行けば、きっと他地区にも負けないまちづくりが出来ると思います。また、尚一層の行財政改革を進めて行くには県の指針である賀茂地域1市5町の合併を真剣におし進めて行かなければなりません。それには、議会は重要な機関である事を充分認識し、対処してまいりたいと思っております。

この間、議会・委員会はもとより、国、県、東部議長会、友好都市親善訪問、各省庁への陳情、各種総会他、公式行事等への出席と繁忙な日程をつつがなく勤めることが出来ました。これも丈夫な身体に育ててくれた、親のおかげと感謝しています。新年あけましておめでとございます。市民の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。議会の要職を賜り、早いもので残す所、4ヶ月余となりました。

かなか地方へは景気の影響力は少なく、かえってマイナス面が出てきているのが現状だと思います。この様な状況の中、「観光立市」をかかげる当市としてはどの様にして元氣あるまちづくりをして行くかが最大の課題と考えます。まちづくりで成功している、千葉県の旧佐原市、黒壁の滋賀県長浜市、大分県豊後高田市の商店街修景事業等見てまいりました。古い建物や歴史的な物を大変うまく活用して大勢の観光客で賑わっております。各地に共通して言える事は多

このようないかなければ計画通りの財政再建はできません。事業の選択と重点化にあたっては、市民の皆様にご理解いただけるよう十分な説明責任を果たしてまいります。合併推進構想

下田の自然や歴史、まちなみを考えますと、「観光立市」という気持ちが増え、強くなっております。昨年11月に開催したまちづくりシンポジウムでは、下田には伊豆石やなまこ壁の本物が数多く存在していることが報告され、下田らしい景観形成の方策が探られました。暮らしの文化としてなじんできた歴史的まちなみ景観は下田の個性であり、この景観の大切さや心地よさを、そこに住む我々自身がなかなか気づくことができませんでした。現在取り組んでおります景観形成計画策定では、なまこ壁や伊豆石だけでなく自然風景を取り込んだ、豊かな空間のある下田のまちづくりが提案されることと期待しております。今の景観を市民の皆様と協働で守っていくことがまちへの誇りに繋がりますと深く思っています。市民の皆様とそんなまちづくりをしてまいりたいと考えております。

このようないかなければ計画通りの財政再建はできません。事業の選択と重点化にあたっては、市民の皆様にご理解いただけるよう十分な説明責任を果たしてまいります。合併推進構想

下田の自然や歴史、まちなみを考えますと、「観光立市」という気持ちが増え、強くなっております。昨年11月に開催したまちづくりシンポジウムでは、下田には伊豆石やなまこ壁の本物が数多く存在していることが報告され、下田らしい景観形成の方策が探られました。暮らしの文化としてなじんできた歴史的まちなみ景観は下田の個性であり、この景観の大切さや心地よさを、そこに住む我々自身がなかなか気づくことができませんでした。現在取り組んでおります景観形成計画策定では、なまこ壁や伊豆石だけでなく自然風景を取り込んだ、豊かな空間のある下田のまちづくりが提案されることと期待しております。今の景観を市民の皆様と協働で守っていくことがまちへの誇りに繋がりますと深く思っています。市民の皆様とそんなまちづくりをしてまいりたいと考えております。

このようないかなければ計画通りの財政再建はできません。事業の選択と重点化にあたっては、市民の皆様にご理解いただけるよう十分な説明責任を果たしてまいります。合併推進構想

下田の自然や歴史、まちなみを考えますと、「観光立市」という気持ちが増え、強くなっております。昨年11月に開催したまちづくりシンポジウムでは、下田には伊豆石やなまこ壁の本物が数多く存在していることが報告され、下田らしい景観形成の方策が探られました。暮らしの文化としてなじんできた歴史的まちなみ景観は下田の個性であり、この景観の大切さや心地よさを、そこに住む我々自身がなかなか気づくことができませんでした。現在取り組んでおります景観形成計画策定では、なまこ壁や伊豆石だけでなく自然風景を取り込んだ、豊かな空間のある下田のまちづくりが提案されることと期待しております。今の景観を市民の皆様と協働で守っていくことがまちへの誇りに繋がりますと深く思っています。市民の皆様とそんなまちづくりをしてまいりたいと考えております。